

研究主題 「自他を尊重する豊かな心を持ち、

よりよく生きようとする生徒の育成」

～「考え、議論する道徳」の充実を通して～

飯能市立加治中学校

## 1 研究主題の設定理由

本校では「心を磨く、自ら動く」を学校教育目標に掲げ、日々教育活動を行っている。道徳教育の要となる道徳科の授業では、生徒の道徳性を養うために工夫し、実践を重ねてきた。多くの生徒が仲間と協力して充実した学校生活を送り、様々な活動に主体的に取り組んでいる。しかし生徒の中には、自分の行動に自信を持ってない、新たなことに挑戦しようとしめない、自らの課題への積極性に欠ける姿勢の者も見られる。また、他人の気持ちを考えない言動をとってしまう者も見られる現状である。

一人一人の生徒が自己の生き方を見つめ、多様な価値観や考えを認め合い、よりよい生き方についての考えを深め、自他を尊重する豊かな心を育てる授業や教育が求められている。そのために、生徒の実態を把握し、全職員で共通理解を図りながら、「考え、議論する」道徳の授業を実践していくことが大切であり、よりよく生きようとする生徒の育成につながると考える。以上のことから、本研究主題を設定した。

## 2 研究の仮説

- (1) 生徒の実態を把握し、それに即して組織的・計画的な教材研究を行った上で、明確なねらいをもつ「考え、議論する」道徳の授業の充実が図られれば、自他を尊重する豊かな心をもつ生徒を育成することができるだろう。
- (2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を意識し、道徳と両輪の関係である特別活動教育において、生徒たちが主体的に動くことができる場面や様々な体験活動を創出すれば、豊かな心を持ち自他を尊重する心情をもった生徒の育成を図ることができるだろう。

## 3 研究の経過

時期	内容
5月26日	校内研修 ・研修組織、部会ごとの協議、アンケート項目の検討
7月10日	道徳アンケート（生徒・保護者・教員）の実施
7月17日	学校道徳だより①の発行
7月22日	校内理論研修会

	講演会：「道徳科の授業の充実に向けて」 指導者：飯能市教育センター 谷口 晶子 主任指導主事
8月～3月 8月～3月	学年ローテーション道徳の実施 道徳科の「1人1授業」の実施
8月22日	道徳アンケート（生徒・保護者・教員）の分析
10月1日 10月9日	第1回-QUの実施 校内指導法研究会① 講演会：「基本的な道徳授業の授業構成」 指導者：十文字学園女子大学 浅見 哲也 教授
10月21日 10月29日	道徳部会 ・重点項目の決定 第64回埼玉県道徳教育研究大会ふじみ野大会参加
11月4日 11月21日 11月28日 11月29日	校内研修会 ・Q-Uについて 学校評価（生徒・保護者・教員）の実施 第59回全日本中学校道徳教育研究大会岐阜大会1日目参加 第59回全日本中学校道徳教育研究大会岐阜大会2日目参加
12月11日 12月23日	校内指導法研究会② 研究授業：1年生2クラス・2年生2クラス （新しい道徳 東京書籍）（彩の国の道徳 中学校『自分を見つめて』） 講演会：『「考え、議論する道徳」の授業で大切なこと」 指導者：西部教育事務所教育支援担当 星野 嘉之 指導主事 飯能市教育センター 谷口 晶子 主任指導主事 学校道徳だより②の発行
1月13日 1月26日	第2回Q-U実施 校内研修会 ・学校評価の分析
2月5日 2月9日	校内指導法研究会③（授業研究および講演会） 研究授業：1年生2クラス・2年生2クラス・3年生2クラス （新しい道徳 東京書籍）（彩の国の道徳 中学校『自分を見つめて』） 講演・模擬授業 「『考え、議論する道徳』の事業実践に向けて」 指導者：十文字学園女子大学 浅見 哲也 教授 校内研修会 ・学校研究の成果とまとめ ・来年度の研究の方向性の検討 ・Q-Uの分析

#### 4 研究の内容

(1) 「考え、議論する道徳」の授業に向けた研修の充実

道徳校内理論研修会では、道徳教育の目標や道徳性の捉え方など、道徳教育の本質を学び、本校の道徳教育への向き合い方を改めて考える機会となった。授業

研究を柱とした「校内指導法研究会」では、授業の基礎・基本となる部分を学ぶ



ことで、より充実した授業作りができるようになった。研究授業の際には教科書や「彩の国の道徳」を活用している。また、校外の研修会へ積極的に参加し、「職員向け道徳通信」で学んだ内容を校内に周知している。これらの研修を通じて、校内全体の道徳教育の質の改善を行っている。

(2) 授業構想シートの活用

ねらいを持って道徳の授業を行うために、本校独自の「授業構想シート」を作成し、活用している。生徒の実態やねらいなど、授業を考えるにあたり必要な事柄を掲載されている。授業の際に手元に置くことで、発問が一目でわかるレイアウトになっている。また、時間配分のデザインに工夫を施し、授業の全体の流れを捉えながら授業ができるようにしている。板書計画では、10種類の板書例を提示し、授業内容に最も適したものを選ぶことができるようにしている。このシートを活用することで、授業者にとって授業の意図が明確になり、その結果自己を見つめ多面的・多角的に考える学習が増えたことで、生徒の深い学びにもつながっている。



(3) 道徳の1人1授業の実施

本校では8月から3月の間に、「1人1授業」として全教員が道徳の研究授業を行っている。研究授業の際には上記の「授業構想シート」を作成し、全教員が事前に目を通すことが出来るようにしている。参観者は「授業参観シート」に授業の感想や、発問や活動場面が適切であったかどうかを記入し、授業者に提出することになっている。研究授業では教科書や「彩の国の道徳」を用いて指導を行っており、この1人1授業を通して、教員同士の学び合いが活発に行われている。また、理論研修会や指導法研修会で学んだ内容が実際の授業に活かされているかを見合う機会ともなっている。



(4) Q-Uの活用

生徒・学級の実態や道徳教育の効果の把握、生徒指導や教育相談の面でよりよい指導を行うための資料としてQ-Uテストを年間で2回実施している。本校の重点目標が「相互理解、寛容」であるため、「いごこのよいクラスにするためのアンケート」に重点を置いている。Q-Uの分析に関する研修も行い、適切に結果を分析できるような場も設けている。



(5) 道徳教育に関する環境整備

環境整備部会で、道徳の授業やその他の授業で大切にしてほしいことについて話し合い、生徒に向けてまとめたものをクラスの掲示物として作成



し、全クラスに掲示している。保護者の願いや生徒の考えも一部取り入れ、内容項目を意識したデザインにした。

#### (6) ほめほめハッピーシャワーの実施

月末に生徒がお互いの良いところを伝え合う「ほめほめハッピーシャワー」という活動を行っている。クラスメイトの良い面を積極的に認める場面を作ることで、互いの個性を尊重したり、いろいろなものの見方や考え方があることを理解したりする心を育むことがねらいである。自己を肯定的にとらえる「自己受容」と自己の優れている面などの発見「自己理解」を促すような活動となっている。

#### (7) 家庭・地域への情報発信

学期に一度、道徳の授業での取り組みを「学校道徳だより」として発行している。各学年の学習内容や生徒の感想を載せ保護者や地域に発信している。プリントには返信欄を設け保護者からの意見も受け付けることで、道徳教育の改善に役立てている。



## 5 研究の成果と課題

### (1) 成果

県学調「規律ある態度」達成目標においては、現中2と現中3の経年変化で見ると、12項目中で現中2では8項目、現中3では9項目に渡り達成率の上昇が見られた。全学調においては、「自分には良いところがある」と回答している生徒は87.3%に上り、これは全国平均をやや上回っている。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることが出来るか」の質問に対して91.3%の生徒が肯定的であり、全国平均とほぼ同じ結果となった。また、本研究の仮説にある「道徳の両輪の関係である特別活動教育の充実を通じて生徒の豊かな心を育成すること」については、生徒対象の学校評価の「学校行事は適切に行われ、生徒の成長に役立っているか」という質問で90%の生徒が「そう思う」と回答していることから、自他を尊重する心情をもった生徒の育成の一助となっていることが分かる。

### (2) 課題

先に述べたように、本校の生徒は道徳の授業で学級やグループで話し合ったりする活動に取り組むことを好む一方で、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答している生徒は65.9%となり、全国平均である79.2%を下回っている。この結果から、多くの生徒が自身の意見に自信を持てずにいることがうかがえる。また、学校評価において「教育活動を通じて寛容な心を育てているか」という項目に対しては、「そう思う」と回答したのは保護者が62%、生徒が63%にとどまった。

来年度も、生徒と教員の温かな信頼関係のもと、生徒が自らの考えや思いを安心して伝えることができたり、「考え、議論する」ことを心から楽しんだりすることができる、そんな魅力ある道徳を全教職員で目指していく所存である。